平成27年度市民まちづくり提案事業（市民活動促進部門） 事業実績1				
事業者	団体名	鳥取コミュニティシネマ	代表者	清水　増夫
事業内容	助成事業名	映画「ペコロスの母に会いに行く」上映会		
	事業目的	「ペコロスの母に会いに行く」を上映することにより、都会との上映本数格差の是正に取り組んだ。 深刻な社会問題として語られがちな介護や認知症について、映画「ペコロスの母に会いに行く」上映会を通じて理解を深めた。		
	事業の内容	県内では上映予定のない映画「ペコロスの母に会いに行く」を上映し、都会との上映本数格差の是正に取り組むとともに、介護や認知症についての理解を深める。 		
	実施場所	鳥取県立博物館	実施日	平成27年10月25日
	対象者	一般市民	参加人数	214名
	事業の成果	高齢化が進む中で、「介護」「認知症」は深刻な社会問題となっており、そんな中で、映画「ペコロスの母に会いに行く」上映会は、介護している者はもちろん、介護されている者にも勇気を与え、前向きな気持ちにさせ、市民に多くの共感と感動を与えた。		
	今後の活動の展望	事業の自立化 鳥取コミュニティシネマは毎月のように上映会を開催しており、都会との上映本数格差の是正を図る。 昨年6月の発足から、鳥取未公開作品を中心に積極的に自主上映会を開催しており、継続・発展は明るい。		
費用	総事業費	186,923	助成金額	0

※見込んでいた倍の数の来場者があり、入場料で全支出を補うことができたため助成金は0円となった。

平成27年度市民まちづくり提案事業（市民活動促進部門） 事業実績2				
事業者	団体名	認知症の方と家族を支える オレンジカフェめぐむ	代表者	田中　和彦
事業内容	助成事業名	認知症の方と家族を支えるカフェ立上げ事業		
	事業目的	若年認知症の本人と家族・パートナーが運営する。 認知症の人と家族・地域住民・専門職等誰もが参加できお茶などを楽しみながら、気軽に立ち寄れるつどいの場を目的とする。		
	事業の内容	認知症の方と家族、地域住民、専門職などの誰もが気軽に立ち寄り、お茶などを楽しみながら相談や介護などの情報交換できるカフェを開設する。 		
	実施場所	鳥取市桜谷２５－５	実施日	毎月第3土曜日
	対象者	認知症の人と家族、地域住民、専門職等だれでも	参加人数	1回の開催に お客様10名程度
	事業の成果	1回の開催にお客様が10名程度でお茶を飲みながら楽しい一時を過ごしていただいている。相談も毎回2～4件あり、専門職が相談にあたっている。 回を重ねるごとに地域にも認知されお客様が増えてきている。		
	今後の活動の展望	オープンから約半年、NHKふるさと伝言板に出演したり、チラシ配りをしながら一人でも多くの人たちに分かっていただくように活動している。最近は成果が少しずつ表れるようになり、「チラシをみて電話しました」と言われる方も多くなった。今後も活動を継続して一人でも多くの方に若年認知症を理解していただきたいと思っている。		
費用	総事業費	108,617	助成金額	100,000

平成27年度市民まちづくり提案事業（市民活動促進部門） 事業実績3				
事業者	団体名	鳥取おやこ劇場	代表者	藤田　美奈子
事業内容	助成事業名	おやこで楽しむ和太鼓＆熊手おどりワークショップ		
	事業目的	和太鼓奏者：塩原良氏（歌舞劇団　田楽座出身）による和太鼓演奏の指導と、熊手踊りの指導を親子で直接受けることのできる体験会。また、演奏公演での共演も体験できる貴重な機会。子どもたちに新しいことに挑戦することを通して、自主性や主体性を伸ばしたい。また、親子で参加することで、親子の絆も深めたい。		
	事業の内容	和太鼓奏者による和太鼓演奏の指導と、熊手踊りの指導を親子で直接受けることのできる体験会を実施することで、子どもたちの自主性や主体性を伸ばし、また親子の絆を深める 		
	実施場所	松保体育館 とりぎん文化会館小ホール	実施日	平成27年6月13日、 平成27年7月16日、17日
	対象者	幼児（4歳）～大人	参加人数	太鼓29名　熊手踊り7名 一般観覧者225名
	事業の成果	和太鼓演奏の指導では、日本の伝統芸能に触れる良い機会となり、みなで合わせて太鼓を叩く楽しさを味わうことができた。また、公演での共演でも、子どもたちが生き生きと演奏する姿が見られた。保護者も熊手踊り隊として参加でき、親子で貴重な体験ができた。		
	今後の活動の展望	今後も体験型のワークショップを企画し、普段できない体験を楽しみ、豊かで健全な子どもたちの成長を望みたい。		
費用	総事業費	480,909	助成金額	200,000

平成27年度市民まちづくり提案事業（市民活動促進部門） 事業実績4				
事業者	団体名	喘息患者会「いなば会」	代表者	瀧山　敏夫
事業内容	助成事業名	第23回喘息デー「喘息治療講演会」 （喘息患者会『いなば会』設立20周年記念）		
	事業目的	喘息患者本人はもとより、家族や市民の方々に気管支喘息に対する正しい知識を普及し、喘息患者の①喘息による死亡を予防し、②生活の質の向上を図る。		
	事業の内容	講師を招聘し、県内外のぜんそく患者や家族、一般市民の参加のもと講演会を実施する。気管支喘息に対する正しい知識を普及することで、喘息患者の喘息死を予防し、生活の質を向上させる。 		
	実施場所	とりぎん文化会館 第1会議室	実施日	平成27年11月28日
	対象者	「いなば会」会員、市民・県民ほか（制限なし）	参加人数	72名
	事業の成果	公民館でポスターを見て奥さんと参加したという方が、「喘息についてこんな詳しい話を聞いたのは初めてだ。診察の際、かかりつけの先生とこのような内容を話す機会はない。自分の病気についていろいろ知ることができ、家内にも知ってもらったこともよかった。」と質疑応答時に話されたが、今回の参加者の約30%（22名）が会員外の方だった。 私たちの思いが、少しでも伝わったことを感じさせられ感動した。		
	今後の活動の展望	喘息患者が、自分の病気の正体を知っているかといえば、必ずしもそうとは限らないようだ。診察時の医師との対話も自身の症状等のやりとりが精一杯であろう。患者自身の生活習慣の改善も大切な要素だ。食事や運動習慣等で免疫力を高め、運動機能を維持し健康寿命を延ばす努力も必要である。互いに学び、互いにいたわり励まし合い、より良い人生が送れるよう願い、今後も幅広い視野にたって活動していきたいと思う。		
費用	総事業費	115,696	助成金額	75,000

平成27年度市民まちづくり提案事業（市民活動促進部門） 事業実績5

事業者	団体名	鳥取カレーちゃんぽん連盟	代表者	吉田　美麻
事業内容	助成事業名	「スゴイ！鳥取市のあんかけちゃんぽん」プロジェクト		
	事業目的	半世紀にわたり愛され続ける「あんかけちゃんぽん」、そしてその進化系「鳥取カレーちゃんぽん」の食べられる店舗を中心に“鳥取市のちゃんぽん文化”を紹介するリーフレットを作成し、市民へ向けて幅広く情報提供し、鳥取市民に鳥取市での食の楽しみを提供する。 鳥取市における“麺食文化”の魅力を市民へ強く情報発信し、市民と食べる機会を増やす環境を整えて推進することで、「鳥取市の自慢創り」を進めていきたいと考えている。		
	事業の内容	鳥取市内にある「鳥取カレーちゃんぽん」「あんかけちゃんぽん」の成り立ちやちゃんぽん食文化の魅力を紹介。このほか、人気のちゃんぽんや県西部のちゃんぽん、また全国ご当地のちゃんぽん文化も紹介し、「ご当地ちゃんぽん」全体の魅力を楽しめ「食べ歩きガイドブック」として使えるガイドブックの役割も持たせたリーフレットである。 		
	実施場所	配布箇所：アクティブとっとり、鳥取市観光案内所、会員加盟店（10店舗）、取材店（6店舗）、各種ガソリンスタンドなど計30ヶ所程度	実施日	平成28年3月31日発行
	対象者		部数	2500部
	事業の成果	・食のガイドは鳥取市内でも多く見られるが、「あんかけちゃんぽん」に特化したものは初となる。取材店や配布先から「“あんかけ”が鳥取の特徴とわかって、オススメしやすくなった」「鳥取はちゃんぽんも魅力になる」といった、鳥取オリジナルの食文化への意識が高まった。 ・提供店は昼間営業が多く、鳥取へお越しの観光客へ昼食の楽しみを提供できるほか、地元民への食べ歩きの誘発をおこすことにもつながる。 ・紹介ツールができたことで、今後「カレーちゃんぽん」提供店提供を増やし、鳥取のちゃんぽん文化を広めることができる。 ・取材店に（特に「あんかけちゃんぽん」）においては、自店のメニューの「貴重さ」「よさ」を再発見していただく機会の創出がはかれた。 （課題）部数と配布先をさらに充実させることが喫緊の課題。もっと「ちゃんぽん」を食べる機会を創出し、かつ「あんかけちゃんぽん」が鳥取独自のものであることをPRしていくことが「鳥取自慢」には必要と考える。今後はボランティアセンターの印刷機、また自己資金や協賛金も含め、増刷の機会を設けたいと思う。		
	今後の活動の展望	・「鳥取カレーちゃんぽん」の普及（提供店の拡大） ・「ちゃん本」の増刷と配布 ・「とっとりちゃんぽんフェスタ」の開催（定例化に向けた取り組み）		
費用	総事業費	138,000	助成金額	94,000

平成27年度市民まちづくり提案事業（市民活動促進部門） 事業実績6

事業者	団体名	鳥取式屋台楽宴 実行委員会	代表者	堺　泰樹
事業内容	助成事業名	トットリ式屋台楽宴プロジェクト　秋の用瀬めぐり　きむらとしろうじんじん「野点」2015inとっとり＋いろいろ屋台の宴		
	事業目的	地域（今回は用瀬）の魅力の再発見と、地域住民・アーティスト・学生の相互交流を促すため、それぞれが創り上げるユニークな屋台が一堂に会するイベントを開催する。		
	事業の内容	「鳥取市内の様々な場所に魅力的な何かを持ち出し、地域を刺激し、新たな出会いとコミュニケーションの深まりを楽しむ！」という精神のもと、さまざまな世代の市民、学生、アーティストが用瀬に集まり、各自が考える「魅力的な何かを実体化した手作り創作屋台を披露し、訪れた市民との交流、そして用瀬に潜在する魅力の再発見につながるような「屋台イベント」を開催する。 		
	実施場所	JR用瀬駅前芝生広場と 用瀬のあちらこちら	実施日	平成27年11月8日
	対象者	鳥取市内に居住する方々を中心とし、年齢性別を問わない	参加人数	530名
	事業の成果	1．地域資源の再発見 イベントでは約40台の屋台を普段町民でも歩かないような路地や瀬戸川沿いに配置し、参加者に町を歩いて楽しんでもらった。日常の風景とは違った風景を見ることによって出展者・参加者ともども、まちが持っていたさまざまな可能性を感じ、地域の魅力を再発見することができた。 2．多様なつながりの創出 昨年度のメンバーに加え、新たな鳥取大学生、鳥取環境大学生が創作屋台と野点の双方に関わり、スタッフとして積極的に企画運営を担い、イベント・マネージメントの初歩を体験した。その際に、用瀬町のまちづくり団体の用瀬宿活性化委員会や用瀬の市民の方々と協力体制をとった。地域住民・学生・アーティストが密接にイベントを作り上げたことによってその場限りではない次回に向けた志のある関係性が生まれた。 イベント当日も、「つながる装置」としての屋台を中心に人々が集まり多様なコミュニケーションが生み出されていた。 3．参加体験型アートの提供 地域住民にとって鑑賞するだけのアートではなく、自分が何かを作ることができるという場を提供した。 4．地域における市民の創造性の誘発 地域住民の多くが積極的にイベントの企画者・出展者として参加していただき地域の方々へも活動が誘発された。開催日が近づくにつれて地域住民から次々と出店希望が出てきて、イベント自体もより豊かになるとともに目に見えてまち全体が動いていることが見て取れた。 5、地域活性化の促進 大学生による「2015年屋台」（カレンダーを使ったワークショップ）や「用瀬巡回屋台」（屋台を引きながら小冊子を販売する）、市民による手作りパスタの屋台や写真提示の屋台など、それぞれの想像を具体化した屋台が展開されたことによって、独特の雰囲気の賑わいの場所が生み出された。鳥取市内県内にとどまらず県外からも参加者が来るほどの賑わいを創出した。 6．地域の担い手の育成 新メンバーも多く集まり、実際に地域で活動を行うノウハウや地域の中での関係性のつくり方を学ぶことができた。		
	今後の活動の展望	・今後も引き続き鳥取市の魅力的な場所で、創作屋台や野点を展開していきたいと考えている。 ・組織としては、大学生が中心となっていく動きが加速しつつあるが、一般市民の比重も増やしながら、より多様性のあるイベント、ソフト事業を展開していきたいと考えている。		
費用	総事業費	280,478	助成金額	200,000

平成27年度市民まちづくり提案事業（市民活動促進部門） 事業実績7				
事業者	団体名	アモーレ鳥取ボヌッチの会	代表者	松浦　ふさ代
事業内容	助成事業名	鳥取とイタリアの音楽交流の軌跡		
	事業目的	パネル展示会とフィルムコンサートなどにより、音楽を通した鳥取とイタリアの交流の軌跡を紹介し、鳥取とイタリアの交流の輪を拡げることを目的とする。		
	事業の内容	イタリアの著名なバイオリニストとの鳥取での交流の軌跡をパネル展示するとともに、解説付きのフィルムコンサートを行う。イタリアの文化・音楽に触れることで、イタリアとの交流の輪を広げていく。 		
	実施場所	鳥取市立中央図書館、 鳥取市文化センター、 とりぎん文化会館	実施日	平成27年8月25日～ 12月18日
	対象者	一般市民	参加人数	約350人 （内フィルムコンサート 60人）
	事業の成果	・成果：アモーレ鳥取ボヌッチの会の活動を通した鳥取とイタリアの音楽交流の軌跡を紹介することにより、地方都市でも直接イタリアの文化・音楽に触れることが可能なことを示すことができた。 ・課題：パネル展示・フィルムコンサートに来られた方から次回のコンサート実施を楽しみにしているとの要望があった。		
	今後の活動の展望	来場者からも要望が出されていたボヌッチコンサートの実施を検討したい。		
費用	総事業費	132,529	助成金額	99,000

平成27年度市民まちづくり提案事業（市民活動促進部門） 事業実績8				
事業者	団体名	鳥取県東部手話サークル連絡協議会	代表者	星見　安鶴子
事業内容	助成事業名	手話漫才ぷ～＆み～公演会		
	事業目的	気軽に楽しめるお笑いを通して、聴覚障がい者理解の促進と手話普及を目的とし、広く市民に呼びかけをする。 障がいに関係なく、集い楽しめる場を作る。		
	事業の内容	手話漫才など気軽に楽しめるお笑いを通して、広く市民に手話と触れ合ってもらい、手話の普及と聴覚障がい者理解の促進を目指す。 		
	実施場所	さざんか会館5階	実施日	平成28年2月11日
	対象者	鳥取市民	参加人数	230名
	事業の成果	手話学習経験者からは、「もっと手話で話せるようになりたい。」「改めて手話をがんばろうと思った。」 手話を知らない方からは、「手話は手話通訳だけと思っていたが日本語と同じように話せることに驚いた。」「手話を学ぼうと思った。」等の意見があり、手話が特別なものではないことを感じてもらい手話理解へつながったと思う。		
	今後の活動の展望	今後も楽しみながら手話に触れられる行事を計画し、手話があることが当たり前に思える社会づくりへつなげていきたい。		
費用	総事業費	192,714	助成金額	114,000